

スキーツアーを楽しもう

島岡 清

スキーの季節がやってきました。スキーといえ
ばすぐにゲレンデの斜面を滑べり降りることが頭
に浮かびますが、本来は雪の中を歩くための道具
であり、事実深い雪の中ではその威力は絶大です。
以前、深い雪の中を歩く時に靴に何もつけない場
合（つぼ足）、輪かんじきをつけた場合、スキー
を履いた場合とで比較してみたことがあります。

すると足が雪に潜る深さは、つぼ足を100とし
て輪かんじきは82、スキーでは55でした。また進
むスピードは、同じエネルギーを使った場合に、
つぼ足を100とすると論かんじきでは123、スキー
では215でした。つまりスキーをつけることによ
って雪に潜る深さは約半分、スピードは2倍以上に
なるわけです。もう10数年前になりますが友人と
2人で3月に北アルプスの槍ヶ岳から立山までス
キーを使って縦走したことがあります。その時途
中で東京の大学山岳部パーティーを追い抜きました。
聞けば私達とほぼ同じコースを輪かんじきと
つぼ足で私達の倍の日数をかけて歩いているとの
ことでした。2倍の日数がかかるということは食
料や燃料も2倍いるということですから大荷物を
背負ってそれこそかたつむりのように歩いていま
した。一方、対象的だったのが北大のパーティー
で、こちらはスキーを自由自在に操って、北アル
プスの奥深くにある黒部源流の広大な斜面を駆け
回っていました。私達はこのコースを実働7日間
で縦走することができましたが、もしスキーを使
ってなければはるかに多くの日数がかかり、予定
のコースを踏破することは困難であったに違いあ
りません。このような山登りにスキーを使用する
場合にはやや短か目のスキー板にかかとの上がる
締具をつけて、登山靴あるいは登山・スキー兼用
靴を使います。そしてスキー板の裏にはシールを
貼りつけます。シールとはその名の通り本来はア
ザラシの毛皮を細長くしたもので、その毛並みが

前に進む時には寝て後ろに滑ろうとするとケバ立
つために、これをつけるとかかなりの急斜面でも登
ることができます。現在はナイロン製のものが使
われていますが、山男の歌の中に「シールはずし
て、パイプのけむりー」という一節があるので
名前だけは御存知の方も多いでしょう。これらは
本格的なスキーツアーのための必需品ですが、最
近楽しまれている歩くスキーではもっと簡単な用
具が使われています。距離競技用のスキー板の中
を少し広くして使い易くし、板の裏にはスプーン
カット状の切り込みを入れて後ろに滑りにくくし
たものが良く用いられています。これですと誰で
もちょっとした練習ですぐに楽しめるようになります。

皆さんの多くは恐らくゲレンデの中でしかスキー
を滑った経験がないと思いますが、一步ゲレン
デを離れて森や林の中に入ってゆくと全く新しい
世界が開けます。スキーを履いて野山を歩き回る
ことはこんなにも楽しいことだったのかという発
見があります。今シーズンは保体センターでも学
生の皆さんを対象にした「歩くスキー教室」（も
ちろん滑るスキーも含まれています）を開催しま
すので、新しい雪の世界を体験してみたいとい
う人たちの参加をお待ちしています。

「歩くスキー教室」募集要項

期日：平成2年2月20日（火）～22日（木）〔2泊3日〕

場所：日和田高原（岐阜県大野郡高根村）

定員：30名

詳しい要項と申し込み書は保体センター
事務室（山の上）及び教養部地区体育館事
務室にあります。定員を満了した時点で募
集は打ち切ります。

（体育科学部）